



振れは振るほど
澄んだ水は湧き出てくる

ある評論家の人が言っていました。
「掃除をすると、いろんなことばよい方向に向かていく」と。
捨てるなり整理したりする行為が、精神面にも影響を与える
ようです。そう考えると、私たちが人間は、震災等の現実から、更に
多くのことを学びました。単に電気の節約とかだけでなく、
自分たちの生活に無駄がバツカ、たことや、何かと欲しがりが
増えた時代を生きてきたことなど、反省することだらけです。

勉強でも同じことが言えます。無駄な文房具をたくさん
持っていたり、問題集を何冊も買っている、勉強の効果は
おぼろしい。それでも不要だから、必要以上に欲しがる。そんな
無駄を越えてくれる人は、最初から多くを欲しがったりせん

夏休みは本気で勉強を!!と誰かか思っているんじゃない。
学校の宿題、3年生は新研究、塾がある人はそれらの課題も
あるでしょう。正直なところ、十分それでいいと思います。
大切なのは「やり直し」の徹底です。何度も何度も解き
直すことです。やり直しは地味な勉強だし面倒く
さいかもしれない。だけど、十分はしていないのに新し
いものに飛びついても何の意味もありません。

親は、我が子の勉強するという言葉にめ、けう弱いところから、教師を欲しびる子に負、てあげがちな時、それはけう無駄になる場合が、多、けうなり。『勉強は一冊を三回で、三冊を一回ではありせん』、確かな知識と深い理解は基礎をくり返すことで得られるので、

災害を経験したことでの生活の不自由さを実感したけれど、おえて
"よかった"点も考えると戦後の長い間にわたり物質を追求めて
きた暮らしに間違いなく機会を得た!!と言えり。無駄はなくし
てがんばり状態をゴソゴソと努力する。そんな勉強と、この夏休み
に試してみてください。

ぬ人はどうだ...この人はどうだ... ぼんて言葉はいらない
 常に 自分は何?と自問自答の日々を送ることが、きくと素晴らしい。
 “今”に「つかまわっていく」こと。自分に激しい人になてほしい。
 何でもいかにとにか「一生懸命」やってみる。命がけでやってみる。
 そうすれば、自分自身の不完全さがよくわかる。
 自分の未熟さが目えてくる。
 精一杯の自分を惜しみなくさらけ出すこと。かこつてお守りな
 素の自分と正直に向き合うこと。そして、言いわけをしないまっすぐな
 生き方を目指していっく! お互いにね。

“前期前半、本当にふくばんばりした。8/26 杯元気に会いましょう！”

けれども
 いくつかK先生が
 何かに書いておりました
 「けれど…」と言うやつは
 結局は何もやらない…と
 ほんとうにそうだ
 ほんとうにその通りだ
 「けれど…」の次に来る言葉は
 必ず弁解と言いつた
 それは
 やれなかつた理由ではなく
 やらなかつた弁解だ
 自分がやらなかつたことを
 何とかやれなかつたことに
 するための
 体裁の言い訳だ

しようと思ったのだけど……
やらないといけないと
考えたのだけれど……
やれなかつたのではない
要するに
やらなかつたのだ
やらなかつたことに
「けれど……」なんて
余計なものはつけてはならない
あとにも先にも
かけがえのないひとつのいのち
それを骨身にしてみて感じ
生きている者は
「けれど……」なんて言わない
余計なおまけはいい

そうすれば
毎日の生活が
どんなに爽やかになることか
毎日のいのちが
どんなに澆刺となることか
それは……
誰に言うセリフでもなく
口ばかりで
身体の動かぬ怠け者の
私自身への
戒めの言葉です

相田みつを 詩集より

か

今大切なものは
カネでも
コトでも
呼吸
呼吸の
今ある

